

合板って、奇数の枚数の板を互いに直交させて接着したものであるという事をみなさんをご存知ですか。

なぜ、奇数枚数の構成をしているのかこれから説明をしていくね。

板って、繊維方向に力を入れると、板は簡単に裂けてしまうよね。

でも、繊維方向と違う方向に力を入れると、結構強く簡単には裂けないと思うんだ。まあ、板としてはまったく弱いけどね。

仮に、板2枚を直交させて接着すると、強い方向の板が弱い方向の板を互いに補強する事になるので、強度の高いしっかりとした板が出来上がるんだ。

しかし、2枚合わせの板がそのまま使えるのかというと、そうはまだまだいかないんだよねー。寸法安定性の悪さという致命的な欠点が存在するんだって。板が湿ったり乾いたりして、板が膨潤・収縮（伸び・縮み）すると全体が反り返ってしまい、平坦な板を作る事が難しい。

そこで、欠点を改良するための方法が、もう一枚上か下に板を貼り、3層にすれば反り返りが生じにくくなって、平坦な板が作れるそうです。

3枚以上についても同じなんだって。4枚構成では狂いが生じやすいが、5枚構成になると狂いが少なくなる。不思議だよねー。

合板が奇数枚数構成である理由としては、寸法安定性の確保のためになっているようですよ。

近隣の方々、是非一度、足を運んでいただき、自分の目で確かめて見てはいかがでしょうか。

ご連絡お待ちしております。

またねー おしまい。。。。

合板はなぜ、奇数枚構成なのか???



株式会社大功